

特別講演 1

「酸関連疾患の病態からみた新たな治療・予防戦略」

京都第一赤十字病院副院長・消化器センター長

吉田 憲正 先生

我が国でも高齢者人口の増加、酸分泌の亢進などに伴い、胃食道逆流症（GERD）、抗血栓剤や NSAID による消化管出血が増加しており、PPI を中心とした酸分泌抑制剤が第一選択の治療・再発予防となっている。難治性症例においては、PPI の増量や分割投与が必要である。

さらに、本年から慢性胃炎でのヘリコバクター除菌および機能性ディスペプシア（FD）治療が保険適応となり、新たな治療指針が登場している。NERD や FD では、酸を抑制するのみでなく、消化管の知覚過敏や運動異常を視野にいれた治療が求められている。

今回は、各種酸関連疾患の病態、evidence と case からみた薬剤選択について考えてみたい。